左の文章は、学校だより十一月号に載せた弁論大会原稿を編集して投稿したところ、**南日本新聞の若い目に掲載**されたものです。

そして、下の文章は、朝の読み聞かせの時間に、新〇〇〇らさんのお母さんが、読んでくださった作文（一部省略）です。

新〇親子の温かい絆が、しみじみと伝わってきます。

誇りに思う島の生活

伊子茂中3年　新

私は加計呂麻島で育ったことを誇りに思います。1カ月の体験移住が終わる小学3年生の夏、私は母に泣きながら「帰りたくない」と、初めてわがままを言いました。その後、一家6人で加計呂麻島にやってきました。

それまで住んでいた東京では、少し歩けば何でも買い物ができました。しかしこの島では、鉛筆1本買うにも船で渡る必要があります。それでも島の生活は、見たこともない生き物たちとの出合いがありました。どこまでも透き通る海や満天の星空、温かい集落の方々との時間など、楽しいことばかりで一日一日があっという間に過ぎていきました。

あれから6年。私は中学3年生になり、進路についてたくさんのことを考え、島を離れて本土に進学することを選択しました。高校生になったら、「世界自然遺産」に登録された島の良さを、出会う人たちに伝えていきたいです。

島立ちの時が来るまで、この島で暮らせたことに感謝し、残りの島での生活を楽しんでいこうと思います。鉛筆1本でさえ船で渡って買いに行った島での日々を大切にしながら。

（瀬戸内町）

島立ちする娘へ

新〇〇夢

家族六人で加計呂麻島にやってきて六年という月日が過ぎました。そしてこの春、中学三年の娘が島立ちを迎えます。もしこの島に来ていなければ、社会人になるまで一緒に暮らせたかもしれない。でも、限られた時間の中で家族と過ごす日々をこんなに愛おしいと思うこともなかったかもしれない。

先日、家族全員で一つの部屋に川の字になって寝ていた時、やがて娘が島から出ていくと思ったら、この光景は今だけの大切な時間なんだと感じて、涙が止まりませんでした。こんなに早く子どもが自立していくとは思いもしなくて・・・。

島で過ごせる時間はあとわずか。娘にとっての宝物は、身近にいる仲間と島での思い出だと思います。大切な人たちとの時間を大事に過ごしてほしいです。伊子茂小中学校のみなさん、そして先生方、娘の大切な時間に出会ってくれて本当にありがとうございます。残り少ない時間ですが、どうぞ娘をよろしくお願いします。

ロードレース大会

12月11日（土）に，校内ロードレース大会を行いました。距離は，小学1・2年生1km，4年生1.5km，6年生2km，中学生女子2.5km，男子3kmです。

沿道に早くから駆けつけた保護者・地域の方々の応援を受けながら参加者全員が無事に完走し，7人（参加者の3分の1）の児童生徒が大会新記録を樹立しまし，9人が自分の目標タイムを達成しました。子どもたちの日頃の努力が実り，充実感あふれるロードレース大会になりました。

加計呂麻園訪問

11月12日（金）に，加計呂麻園を訪問し，島口劇と各学級の劇や演奏等を披露しました。その後，ビーチボールを使ってのゲーム等で交流をし，とても楽しいひとときとなりました。お爺ちゃん・お婆ちゃん，いつまでも元気でお過ごしください。

赤い羽根共同募金

「つながりをたやさない社会づくり　～ あなたは一人じゃない ～ 」をテーマとした赤い羽根共同募金を児童生徒会が中心になって取り組みました。募金額は，1万円を超えました。

人 権 週 間

12月4日～10日は，人権週間です。

本校では，給食の時間に校内放送で人権作文を読んだり，スマイルツリー（友だちの良いところをカードに書いて掲示）の取組等をしたりしました。人権週間前日の12月3日には，児童生徒会で人権集会を開き，**「みんなが笑顔になれる学校」**をスローガンに掲げて，人権意識を高めました。

避 難 訓 練

11月26日（金）に加計呂麻分遣所から２名の消防士の方を講師にお招きして，地震と火災を想定した避難訓練を行いました。避難の仕方や消火器の使い方，炎やけむりの恐ろしさなど，命を守ることについて改めて学び合うことができました。自宅や外出先でも，常に落ち着いた正しい判断と行動を目指していきましょう。